

feel free coffee.

---

2020 04 15 企画提案書

---

コンセプトメイク編

concept map

feel free coffee.  
とくべつな日常

こだわりの珈琲、専門性

特別感

憧れ、満足感

気軽に立ち寄れる空間性

開くこと

見えること  
(わかること)

知っていること

## こだわり × 気軽さ

オーナーが厳選した珈琲豆でドリップされたスペシャルティコーヒーと、それを気軽に楽しめる豊かな空間。  
feel free coffee でお客さんがすごす時間は非日常的な体験ではなく、日常に連続した「少し贅沢なひととき」と考えます。

そこで、私たちは feel free coffee のある日常を「とくべつな日常」と捉えメインコンセプトに展開していきます。

とくべつな日常 = こだわりの珈琲 × 気軽に立ち寄れる雰囲気

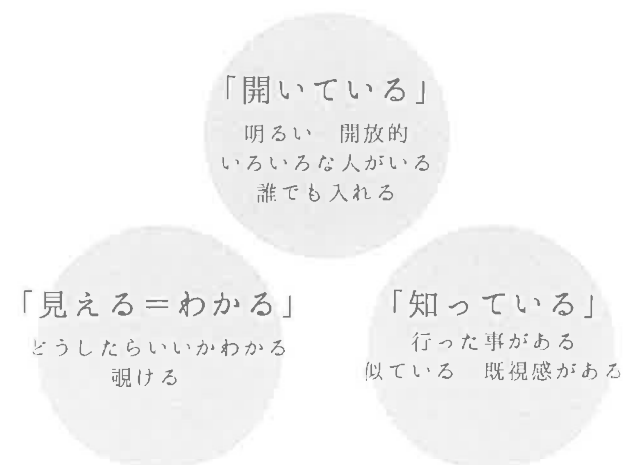


## 気軽に立ち寄れる雰囲気

お客さんに気軽に立ち寄ってもらうには、お店が明るいことや、中が覗けることなど、さまざまな要因があります。

大きくは「開いている」「見える＝わかる」「知っている」の3つの要素から成り立っていると考えます。

この3つの要素で空間を計画し、気軽に立ち寄れる雰囲気を目指します。



## メインターゲットの拡張

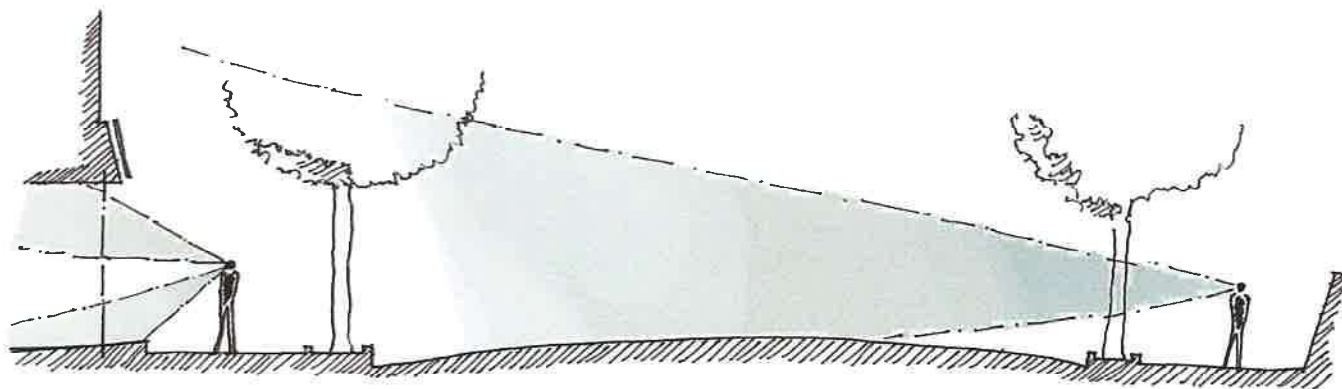
上質な珈琲文化は若者世代には受け入れられやすいですが、少し上の世代にも好きな人が居るかもしれません。それは例えば、隣の理髪店に来るオールドコミュニティの人たち中にも。

ターゲットを学生や主婦等の「世代」に限定するのではなく、「とくべつな日常が好きな人たち」とし、人とのつながり、地域とのつながりを大切に、さまざまな層の人たちがリラックスしてすごせる空間を提案します。

## 立地特性・分析

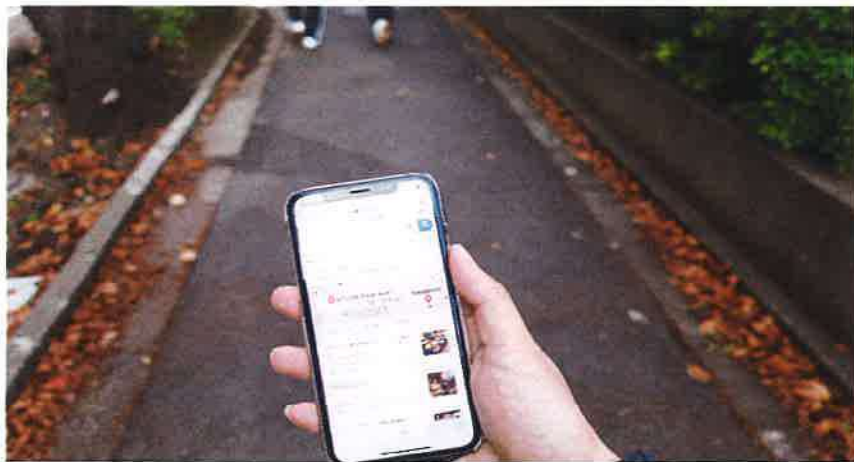


周囲に学校が点在し、学生の集客が期待できます。店舗南方向は住宅街が広がっているほか、駅前十通りの木通りは商業地域に指定され、中規模のマンションが開発されており、若い家族層の集客も期待できます。



広い街道沿いに位置するため二つの見え方があります

### 1. 手元の風景



店舗前の歩道の風景

日常的に行きかう人々でテナントの看板を見上げる人は少ない。斜め下の狭い視界。

スマートフォンを持つ手元 周りの人の足元の風景

### 2. 街の風景



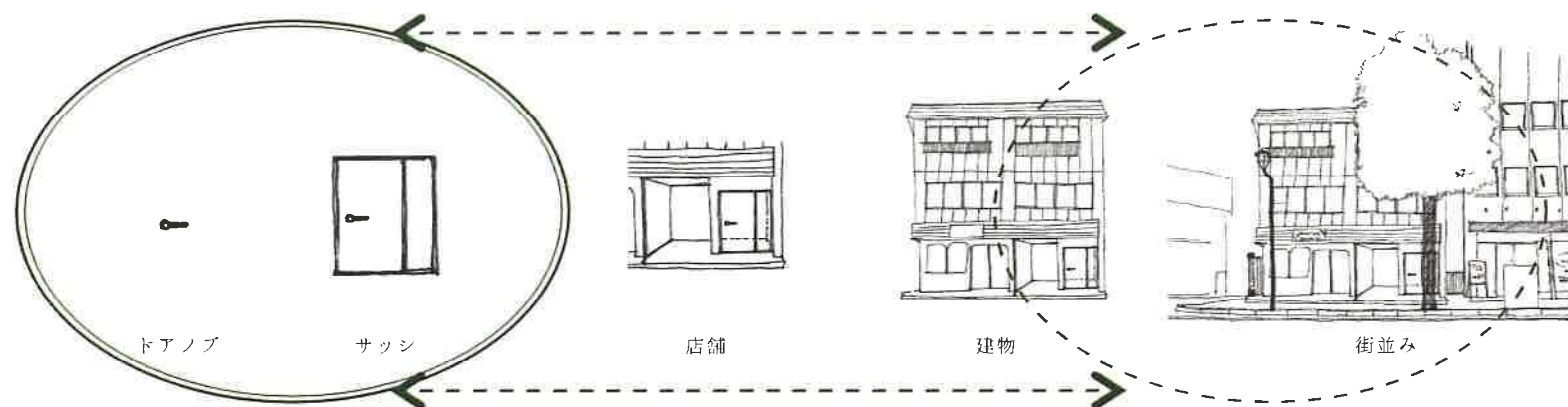
対岸の歩道の風景

テナント部分は独立してみられることはなく、建物全体・道や並木と一体的な広い視界。

全体を眺める街の風景



## 店構えのデザイン

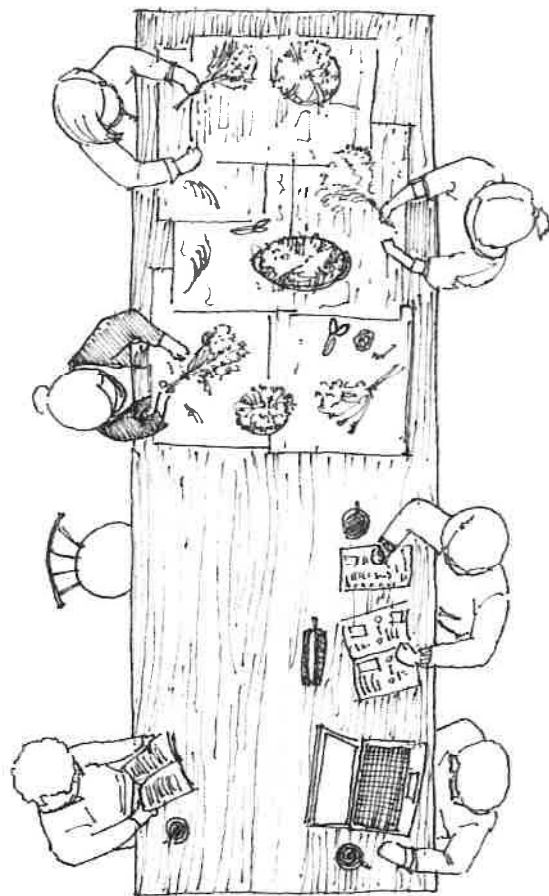


立地特性からみる二つの見え方から、店舗部分のみの外観でお客様や通りの人から認識されることは少ないと考えます。  
手元の風景を丁寧にデザインし、その集合が街の風景に影響を及ぼすような状態を目指します。

### 手元の風景のデザイン=インスタ的空間の展開

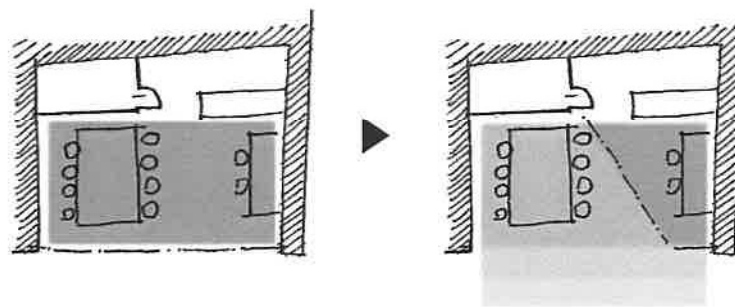


## 大きいテーブルと小さいスタンド



ワークショップの際にはみんなの作業机となることも想定された  
大きいテーブルは、feel free coffee の大きな特徴です。

この大きなテーブルを更に強調するために、店内にカウンター席のある小さい  
スタンド珈琲店を配置してみます。



すると、大きいテーブルは店内にありながらも少しテイクアウト感が生まれます。  
そして窓際のベンチは、ほぼテイクアウトの状態です。

外で飲む人と、内で飲む人の境目にグラデーションが生まれることにより、  
より開かれた使われ方が生まれると考えます。

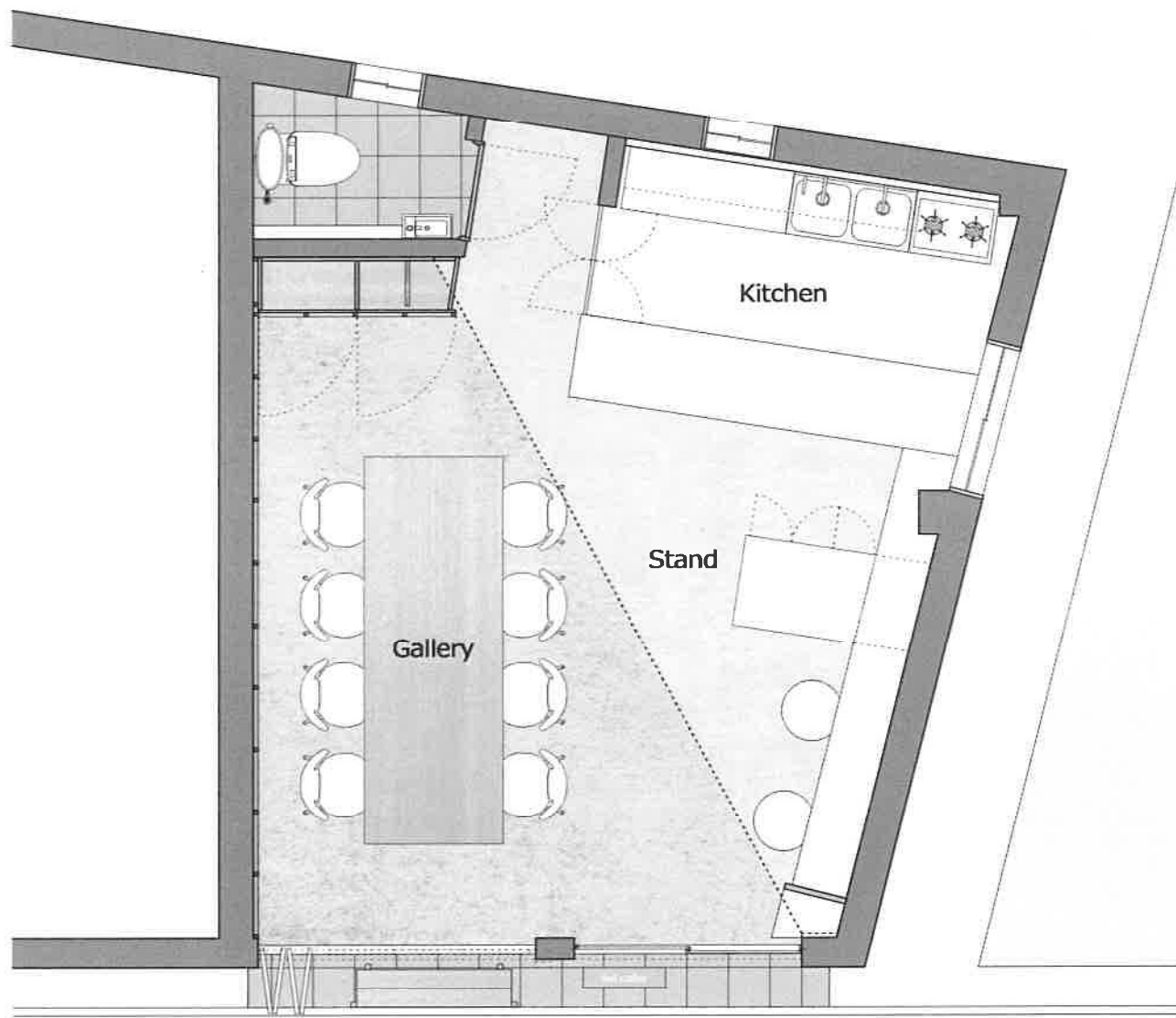


m a t e r i a l   p a l e t t e



内装計画編

平面計画\_大テーブル+三角スタンド



# 内観イメージ

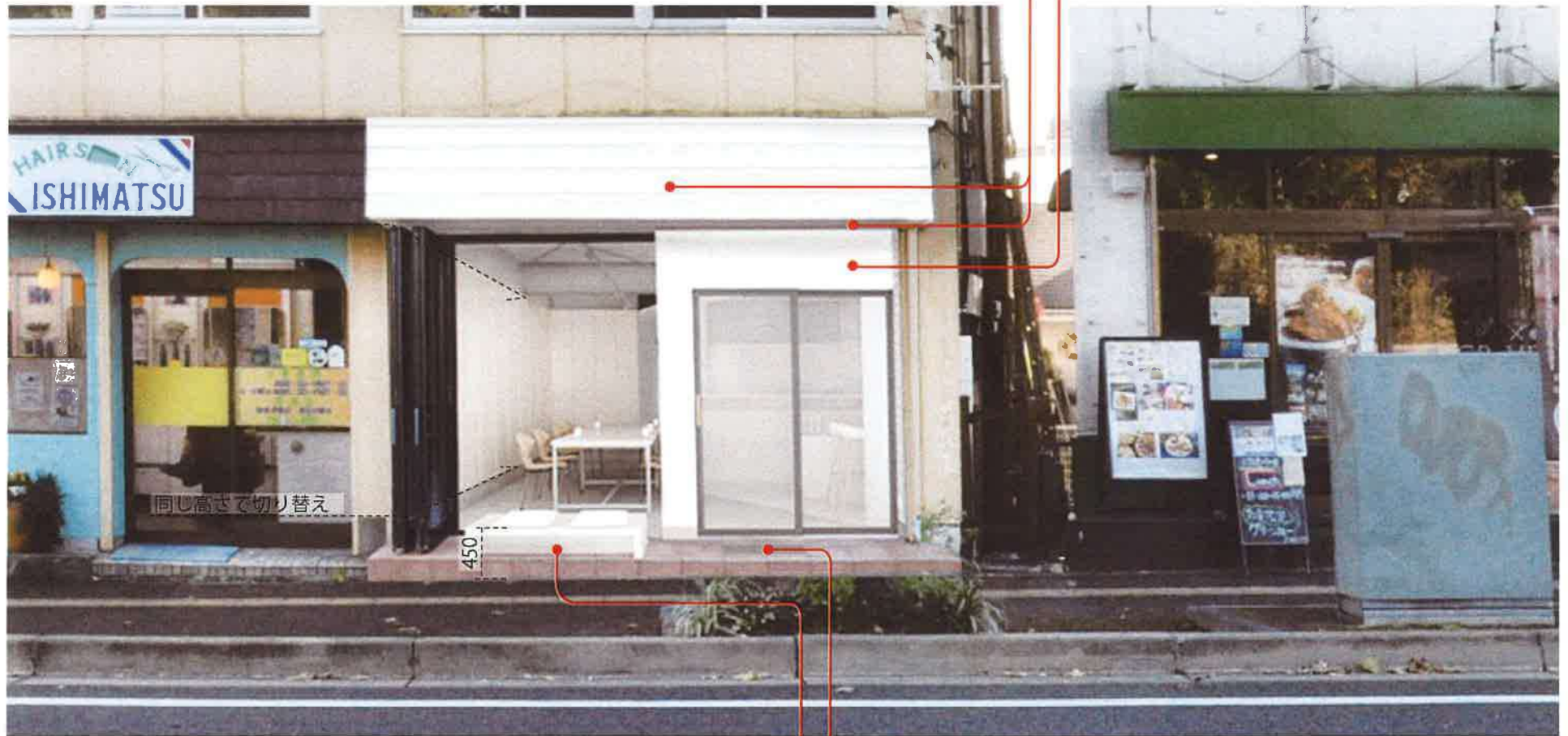


内観イメージ2 模型での検討





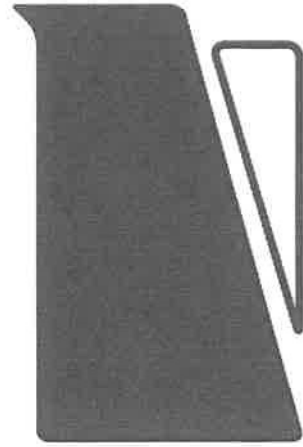
# 外観イメージ



看板：既存の上 NAD 塗装 3 分ツヤ  
外壁タイル：目地刳れ埋めの上塗装

一部タイル撤去の上刳れ SUS 切文字埋め込み ※別途詳細図  
造作ベンチ→施主工事

デザインコーディネート編



feel free coffee.



厳選したコーヒー豆でつくるスペシャルティコーヒー  
そのこだわりは一見見えにくいものかもしれません。  
それでもこだわりを続ける。そんな意味を込めて、  
・ を 豆 にしています。



ロゴとなるコーヒーポットの形は、  
三角形のスタンドと台形のギャラリー  
からなる平面計画から着想しています。